

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 暦に多用されたマヤ文字

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2012-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 八杉, 佳穂 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/4557">http://hdl.handle.net/10502/4557</a>

## 暦に多用されたマヤ文字

マヤ文字は3世紀末から10世紀初頭まで繁栄した古典期マヤ時代に主に用いられました。その間に約3万から5万文字が記されました。しかしそれ以前にマヤ文字の元となる文字が紀元前300年頃にはすでにあった可能性があり、16世紀にスペイン人が征服後もわずかながらもマヤ文字についての知識が伝えられていましたので、長い歴史をもつ文字ということができます。

16世紀中葉に布教にユカタンに来たランダ神父が、『ユカタン事物記』に当時伝えられていた暦の文字と30の音節文字を記しました。それをもとにしながら、この半世紀の間に、テキストの整備が進むとともに、テキストの分析が深まり、マヤ文字の解読がおおいに進んできました。

マヤ文字は漢字仮名文字交じりの日本語の書記体系とよく似ており、表語文字と音節文字の混合体系です。

マヤ文字は石碑などの石に刻んだ刻書体と土器や絵文書などに描いた筆書体の2つの書体があります。そして字体には幾何体、頭字

体、全身体の3つがあります。この3つの字体は同じ意味の文字の書き換えです。

テキストの読み順は、マヤ独自のたいへん変わったものです。2列を対に上から下へ左、右、左、右と読んでいきます。それぞれの文字マスには1字から4字入っています。1字は、偏や旁つくりなどにあたる文字素の集合からなります。文字素の数は700あまりで、それらが結合して文字ができています。

テキストのおよそ3分の1が暦の文字で占められています。暦は紀元前3114年9月6日（ユリウス暦）を暦元とする長期暦を元に260日暦と365日暦の2つを用いて1日を表すことが基本になります。

通常テキストはいくつかの文からなりますが、それぞれの文の最初には必ずといっていいほど日付があります。碑文の日付は、王の誕生や即位、結婚、戦いなどの歴史的な事柄を扱っています。絵文書は主に260日暦の日々の占いを扱っていますが、これも260日暦の日が最初にあり、4文字が1つの文になるのが一般的です。（八杉佳穂）



パレンケの宮殿板。左端の大きな文字列は全身体の文字、その右の列の文字マスには、頭の形をした頭字体と抽象的な図形の幾何体の文字が彫り刻まれている。内容はパレンケの王朝史が記されている。